



参考文献

第1章 序 論

1. 目的と対象

- 1) 日本鼻科学会編, 急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン作成委員会, 急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン 2010年度版, 日本鼻科学会誌, 2010; 49: 143-247.

2. ネブライザー療法の歴史と概念

- 1) 兵 昇, ネブライザー療法の歴史, JOHNS, 1993; 9 (10): 1521-6.
- 2) 八木沢幹夫, 21世紀のエアロゾル療法のあり方—治療の歴史—, 耳鼻咽喉科展望, 1998; 41 (補1): 43-4.
- 3) 兵 昇, ネブライザーの適応と限界—とくにエアロゾル発生装置 病態の面より—, 日本医用エアロゾル研究会報告, 1988; 44-54.
- 4) 大山勝, 臨床応用, エアロゾル吸入療法 (馬場駿吉, 後藤幸夫, 佐藤良暢編), 南江堂, 1989; 110-30.

第2章 総 論

1. ネブライザー療法の適応

- 1) 藤原啓次, 酒井章博, 保富宗城, 山中 昇, 鼻副鼻腔炎検出菌に対する局所療法の効果—ベストロン®, イソジン®を用いて—, 耳鼻咽喉科臨床, 2004; 97: 599-604.
- 2) 馬場駿吉, 小林武弘, 海野徳二, 他, 副鼻腔炎に対するCefmenoxime (CMX) 鼻科用剤のネブライザー療法による薬効評価, 耳鼻と臨床, 1991; 37 (4): 851-80.
- 3) 竹野幸夫, 夜陣紘治, 小村 良, 副鼻腔陰影に及ぼすエアロゾル療法の効果, 耳鼻咽喉科展望, 2002; 45: 21-5.
- 4) 鈴木賢二, 慢性副鼻腔炎に対するrandomized controlled study—エアロゾル療法 (セフメノキシム + ステロイド剤) vs 経口消炎薬投与—, 耳鼻咽喉科展望, 2002; 45 (補1): 17-20.

2. ネブライザーの原理

- 1) 高野 頌, 藪内悟史, 吉田真也, 他, 鼻内術後モデルを用いた鼻・副鼻腔における薬剤粒子の沈着挙動解析, 耳鼻咽喉科展望, 2003; 46 (補1): 45-50.
- 2) 高野 頌, 大木幹文, 大越俊夫, 他, デバイスの選択と使用方法, 耳鼻咽喉科展望, 2012; 55 (補1): 32-9.
- 3) Hyo N, Takano H, Hyo Y, Particle deposition efficiency of therapeutic aerosols in the human maxillary sinus, Rhinology, 1989; 27: 17-26.
- 4) 西城隆一郎, 間島雄一, 兵 昇, 他, 術後上顎洞篩骨洞へのエアロゾル沈着の検討—鼻・副鼻腔モデルを用いて—, 耳鼻咽喉科展望, 2001; 44 (補1): 38-43.
- 5) Saijo R, Majima Y, Hyo N, Takano H, Particle deposition of therapeutic aerosols in the nose and paranasal sinuses after transnasal sinus surgery: a cast model study, Am J Rhinol, 2004; 18 (1): 1-7.

3. ネブライザー療法に用いるデバイス

- 1) 高野 頌, 大木幹文, 大越俊夫, 他, デバイスの選択と使用方法, 耳鼻咽喉科展望, 2012; 55 (補1): 32-9.
- 2) 間島雄一, エアロゾル療法における基礎的研究の歩み, 耳鼻咽喉科展望, 1998; 41 (補1): 45-9.
- 3) 大木幹文, 山口宗太, 大久保はるか, 他, 鼻アレルギーにおけるエアロゾル療法の有用性の検討, 耳鼻咽喉科展望, 2011; 54 (補1): 43-48.
- 4) 今野昭義, エアロゾル療法と鼻・副鼻腔のエアロダイナミックス, 耳鼻と臨床, 1991; 25: 575-684.
- 5) 今野昭義, 井谷 修, Vibrationによるエアロゾルの副鼻腔移行—基礎的検討—, 日本耳鼻咽喉科学会会報, 1981; 84: 13-7.

- 6) Oliver Mitteldorf. Targeted Treatment for the Sinus Cavities. 耳鼻咽喉科展望. 2011 ; 54 (補1) : 33-7.
- 7) 西端真一. 急性副鼻腔炎(急性増悪を含む)に対する工夫と治療効果. 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌. 2013 ; 1 : 46.

4. ネブライザー療法に使用する薬剤

- 1) 山口宗太, 大木幹太, 大久保はるか, 他. 適応となる疾患と薬剤. 耳鼻咽喉科展望. 2012 ; 55 (補1) : 21-6.
- 2) 小宮 卓, 小山 悟, 石塚洋一. アンケート調査からみたネブライザー療法の現状. 耳鼻咽喉科展望. 1998 ; 41 (補1) : 31-6.
- 3) 米倉 新, 鈴木賢二, 森 淳, 他. 実地臨床に鼻ネブライザー用薬剤の使用状況. 耳鼻咽喉科展望. 2001 ; 44 (補1) : 24-7.
- 4) 鳴戸理佐, 藤澤利行, 中島真幸, 他. ダブルコンプレッサー式ジェットネブライザーの副鼻腔への塩酸セフメノキシム(CMX)移行について—振動・加圧ネブライザーの有効性—. 耳鼻咽喉科展望. 2008 ; 51 (補) : 11-4.
- 5) 藤澤利行. 臨床効果のエビデンスとその検証. 耳鼻咽喉科展望. 2012 ; 55 (補1) : 27-31.
- 6) 酒井国男, 楠岡一雄. 保険医療面～見たネブライザー療法の現状. ネブライザー療法 上気道領域における臨床諸問題(石川 哮編). 文光堂, 1993 : 129-31.

第3章 各 論

1. 前処置

- 1) 大山勝. 臨床応用. エアロゾル吸入療法(馬場駿吉, 後藤幸夫, 佐藤良暢編). 南江堂, 1989 : 110-30.
- 2) 間島雄一, 坂倉康夫. ネブライザー療法 上気道領域における臨床諸問題. 文光堂, 1993 : 19-32.
- 3) 鈴木元彦, 高木 繁, 大野伸晃. 副鼻腔自然口開放処置の有用性について—細菌学的検討とネブライザーの到達度を中心に—. 日本鼻科学会会誌. 2002 ; 41 : 116-7.
- 4) 山田武千代, 斎藤 等, 藤枝重治, 他. 耳鼻咽喉科処置—鼻副鼻腔炎における中鼻道処置の有効性. 耳鼻咽喉科臨床. 2002 ; 95 : 153-7.

2. 使用法

- 1) 馬場駿吉, 小林武弘, 海野徳二, 他. 副鼻腔炎に対するCefmenoxime (CMX) 鼻科用剤のネブライザー療法による薬効評価. 耳鼻と臨床. 1991 ; 37 : 851-80.
- 2) 馬場駿吉, 宮本直哉, 小林武弘, 他. 副鼻腔炎に対するCMX鼻科用剤のネブライザー噴霧吸入療法による薬効評価. 耳鼻と臨床. 1995 ; 41 : 192-217.
- 3) 鈴木賢二. 慢性副鼻腔炎に対するrandomized controlled study—エアロゾル療法(セフメノキシム＋ステロイド剤) vs 経口消炎薬素剤投与—. 耳鼻咽喉科展望. 2002 ; 45 (補1) : 17-20.
- 4) 藤原啓次, 酒井章博, 保富宗城, 山中昇. 鼻副鼻腔炎検出菌に対する局所療法の効果—ベストロン®, イソジン®を用いて—. 耳鼻咽喉科臨床. 2004 ; 97 (7) : 599-604.
- 5) 莊司邦夫, 間島雄一. 耳鼻咽喉科処置—鼻ネブライザー療法の有用性とその評価—. 耳鼻咽喉科臨床. 2002 ; 95 : 31-7.

3. 安全・管理

- 1) 勝井則明, 真鍋美智子, 喜多英二. ネブライザーの微生物汚染防止と適正使用. 日本医科器械学. 2000 ; 70 : 311-6.
- 2) 勝井則明. エビデンスに基づいたネブライザーおよび加湿器の院内感染対策. 奈良医学会誌. 2004 ; 55 : 133-50.
- 3) 尾家重治, 神谷晃. 吸入療法に用いていた吸入液の細菌汚染. 防菌防黴. 1993 ; 21 : 233-6.
- 4) 大越俊夫, 大木幹文, 持木茂樹. ネブライザー溶液の汚染と実態. 耳展. 2006 ; 49補1 : 51-6.
- 5) 持木茂樹, 大木幹文, 大越俊夫, 他. 超音波ネブライザーにおける逆流防止弁の有効性について. 日鼻誌. 2007 ; 46 : 11-7.
- 6) 福岩達哉. コロナ禍における安全かつ効果的なエアロゾル療法の実践. 日耳鼻免疫アレルギー感染症. 2023 ; 3 : 79-87.
- 7) 大木幹文. ネブライザー機器の使用法と留意点. ENTONI. 2018 ; 219 : 24-30.
- 8) Ganer JS, Favero MS. Guideline for handwashing and hospital environmental Control, 1985. Am J Infect Control. 1986 ; 14 : 110-29.

- 9) 小林寛伊. 消毒・滅菌の基本. 消毒と滅菌のガイドライン. へるす出版, 東京, 2012: 8-43.
- 10) 重野浩一郎. 耳鼻咽喉科外来の消毒・滅菌. 耳鼻臨床. 2004; 97: 667-72.
- 11) 白井正. 医療関連感染(院内感染)防止. 耳展. 2013; 56: 125-32.
- 12) 河合悦子, 田辺文憲. 病院で使用中のネブライザーの細菌汚染の実態. Yamanashi Nursing Journal. 2010; 9: 15-20.
- 13) 尾家重治, 神谷晃. 消毒剤の選び方. 日本醫事新報. 1992; 3550: 47-53.
- 14) Pan A, Liu L, Wang C, et al. Association of public health interventions with the epidemiology of the COVID-19 outbreak in Wuhan, China. Jama. 2020; 323: 1915-23.
- 15) 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会. 新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)による上気道狭窄への注意喚起. 2022.3.2.
- 16) 日本環境感染学会. 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第2版改訂版. (ver.2.1)
http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide2.1.pdf
- 17) 兵行義, 黒野祐一, 清水猛史, 他. COVID-19 流行下における鼻ネブライザー療法実態調査. 日耳鼻. 2022; 125: 159-66.
- 18) Hyo Y, Fujieda S, Matsubara A. Survey of nebulizer therapy for nasal inflammatory diseases in Japan before and during the COVID-19 pandemic. Auris Nasus Larynx. 2022; 49: 504-10.
- 19) 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会. 新型コロナウイルス流行下におけるネブライザー療法の指針第2版.
http://plaza.umin.ac.jp/~jiaio/common/pdf/rev1_JIAIO_2.pdf (参照2021/3/14)

第4章 FAQ(よくある質問)

- 1) 日本鼻科学会編. 急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン作成委員会. 急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン 2010年度版. 日本鼻科学会会誌. 2010; 49: 143-247.
- 2) 竹野幸夫, 平田思, 平川勝洋, 他. 鼻副鼻腔疾患における鼻処置前後の鼻腔容量変化について—Acoustic Rhinometryによる検討—. 日本鼻科学会会誌. 1999; 38: 223-9.
- 3) Hyo N, Takano H, Hyo Y. Particle deposition efficiency of therapeutic aerosols in the human maxillary sinus. Rhinology. 1989; 27: 17-26.
- 4) 兵 昇, 兵 行和, 和久田幸之助, 他. 各種鼻アダプターの性能比較試験. 医用エアロゾル研究会報告. 1992; 36-41.
- 5) 大山勝. 臨床応用 I. 上気道疾患. エアロゾル吸入療法(馬場駿吉, 後藤幸夫, 佐藤良暢編). 南江堂, 1989: 110-20.
- 6) 間宮淑子, 内藤健晴. 慢性副鼻腔炎に対するエアロゾル療法の有効性と副鼻腔へのエアロゾル粒子の移行. 耳鼻咽喉科展望. 2001; 44(補1): 44-50.
- 7) 莊司邦夫, 間島雄一. 耳鼻咽喉科処置—鼻ネブライザー療法の有用性とその評価—. 耳鼻咽喉科臨床. 2002; 95: 31-7.
- 8) 大越俊夫, 白井 信郎. ネブライザー濃度の経時的変化. 耳鼻咽喉科展望. 1998; 41(補1): 17-21.
- 9) 坪川俊二. 薬剤の鼻・副鼻腔粘膜への影響. 日本鼻科学会会誌. 1989; 27: 331-3.
- 10) 馬場駿吉. 吸入薬の種類と使い方 I 抗菌薬. エアロゾル吸入療法(馬場駿吉, 後藤幸夫, 佐藤良暢編). 南江堂, 1989: 71-76.
- 11) 吉山友二. エアロゾル療法に用いる薬剤の特性と適切な取り扱い. 耳鼻咽喉科展望. 2012; 55(補1): 40-3.
- 12) 伊藤真也, 村島温子. 抗菌薬. 薬剤治療のコンサルテーション 妊娠と授乳 改訂第2版(伊藤真也, 村島温子編). 南山堂, 2014: 122-4.
- 13) 令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業—人類感染症等の患者発生時に備えた臨床的対応及び行政との連携体制の構築のための研究. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き・第10.1版.
<https://www.mhlw.go.jp/content/001248424.pdf>
- 14) Esper FP, Adhikari TM, Tu ZJ, et al. Alpha to Omicron : Disease severity and clinical outcomes of major SARS-CoV-2 variants. J Infect Dis. 2023; 227: 344-52.
- 15) Kimura Y, Nogami K, Watanabe K, et al. COVID-19 findings revealed via otolaryngological examination : Findings of a Japan Otorhinolaryngologist Association questionnaire. Auris Nasus

- Larynx. 2021 ; 48 : 1176-80.
- 16) 気道感染症抗菌薬適正使用委員会. 気道感染症の抗菌薬適正使用に関する提言(改訂版). 感染症誌. 2022 ; 96 : S1-S22
- 17) 日本鼻科学会. 鼻副鼻腔炎診療の手引き. 日鼻誌. 2024 ; 63 : 1-85.